GRASS ROOTS

くさねっこ

KUSA NEKKO BOOK

くさねっこブック

草津川跡地公園から
広がる市民活動

目 次

02 ---- 草津川跡地公園から広がる市民活動 くさねっこ

03 ---- 草津川跡地プロジェクトとは

05 ---- これまでの取り組み

07 ---- 草津川跡地公園について

09 ---- くさねっこの3つのコンセプト

11 ---- 楽しく活動するためのくさねっこルール

17 ---- くさねっこの活動イメージ

23 ---- くさねっこに参加するには

草津川跡地公園から広がる市民活動 くさねっこ

草津市内を東西に流れていた旧草津川は、町よりも高い位置を流れる「天井川」として全国的に有名でした。川としての役割を終え、2017年4月、跡地として広がるその空間は草津川跡地公園として生まれ変わりました。

川の流れを 人の流れへ

どうすれば、魅力的な公共空間になるの？
その問いの答えとして、主体的に活動する市民を増やすことで、新しい公共空間として生まれ変わる跡地空間を、さまざまな人が使いこなす「生きた場」にしようと考えました。
市民活動団体や個人のさまざまな活動が展開され、訪れた人はどなたでも参加することができる。市民が手づくりで行う活動なので規模は小さいけれど、日常的にいつ訪れてもだれかが楽しく活動している。そんな場所なら、だれもが訪れたいと思う魅力的な空間となるのではないでしょうか。
そして、草津川跡地公園で開催されるプログラムは、個人的な活動やグループ内の閉じた活動ではなく、だれでもその活動に参加することができ、地域や私たちの暮らしがちょっと良くなるようなものであれば、それはとても素敵なことだと思います。
そんな活動が草津川跡地公園から広がっていくことで、草津のまちが抱える課題を楽しく解決することにつながっていくからです。

「くさねっこ」は、このような草津川跡地公園から広がる市民活動の愛称。市民のみなさんとの話し合いの中から生まれたものです。川の跡地にまかれた市民活動の種が芽吹き、草が根を張るように、つながりが広がってほしいという想いがこめられています。

草津川跡地プロジェクトとは

→ 草津川跡地プロジェクト

草津川跡地は、平成14年に旧草津川が廃川となり生まれた広大な空間です。その活用について、さまざまな議論を経て検討された結果、跡地として広がる空間を将来にわたって、さまざまな活動ができる場となるよう、市民のみなさんと一緒に進めていく「草津川跡地プロジェクト」がスタートしました。

川の流れを 人の流れへ

草津川跡地プロジェクトとコミュニティデザイン

草津川跡地プロジェクトは、「景観デザイン」「コミュニティデザイン」「防災・都市環境デザイン」の3つのデザイン手法を導入し、プロジェクトを進めてきました。特に「コミュニティデザイン」では、市民のみなさんに永く利活用される空間となるよう、計画策定の段階から市民のみなさんが参加し、活動の担い手、活動のしくみづくりなど、にぎわいのある空間が育つよう計画に反映してきました。そして、草津川跡地公園のオープン以降も、みんなでつくりあげていく取り組みとして「コミュニティデザイン」の活動を続けていきます。

これまでの取り組み

STEP1 平成24〜25年度 空間デザインへの反映

STEP2 平成26年度 コンセプトメイキング
コンセプトペーパー

STEP3 チームづくり
チーム結成

STEP4 平成27〜28年度 活動プログラムづくり
活動プログラム

STEP5 活動ルールづくり
ルールブック

STEP6 プログラム展開準備

STEP7 平成29年度 プログラムスタート

ワークショップ
フォーラム
社会実験

●STEP1 空間デザインへの反映

平成24年度から草津川跡地の活用を考える市民ワークショップがスタートしました。まずは、空間の基本設計に向けてワークショップを開催。多くの参加者から出された意見をまとめ、空間デザインに反映しました。

●STEP2 コンセプトメイキング

将来の草津川跡地がたくさんの市民のみなさんが利用できる場となるように、草津川跡地で展開していく市民活動の活動コンセプトを話し合うためにワークショップを開催し、草津川跡地で展開する市民活動の愛称「くさねっこ」と、3つの活動コンセプトをまとめました。

→ ナイトピクニック

平成26年、当時の草津川跡地空間を利用できる最後の機会に、ワークショップに参加されている市民のみなさんが、実際の屋外空間を舞台にプログラムを開催する社会実験を行いました。そして、その結果をコンセプトのブラッシュアップにつなげていきました。

●STEP3 チームづくり

講座を通じて楽しく活動する方法を学ぶ「くさねっこカレッジ」を開催。新たに市民活動を始めたばかりの方々、これから活動を始めたい方を対象に、楽しく市民活動を展開するためのチームづくりを進めていきました。

●STEP4 プログラムづくり

「くさねっこカレッジ」で生まれた活動チームと、草津ですでに活動されている市民活動団体のみなさんと一緒に、草津川跡地での活動に向けたプログラムづくりを行っていきました。まずは、草津川跡地公園での活動を想定した社会実験である「くさねっこ文化祭」にむけて、全体ワークショップやチームミーティング、準備会など、開催に向けた取り組みを通じで検討していきました。

→ くさねっこ文化祭

草津川跡地のオープン前に跡地空間での活動をイメージした様々な企画を、多くの方に向けて披露し、市民活動のルールづくりなどに活かす取り組みとして開催。企画から準備、運営まですべて手づくりで進め、文化祭当日は約1,000名の来場者を迎えました。

●STEP5 活動ルールづくり

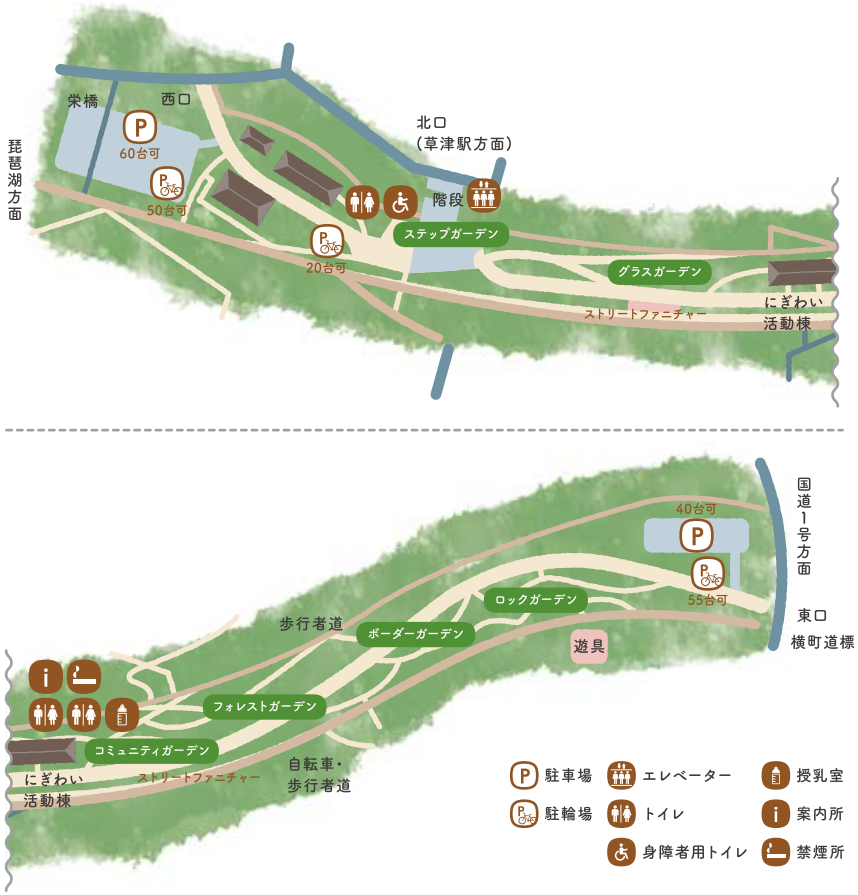
くさねっこ全体の運営を考えていくために「くさねっこ運営チーム」を結成し、月に1度、運営会議を開催し、くさねっこで楽しく活動していくためのルールを検討していきました。また、「くさねっこDAY」に向けた説明会や、ふりかえり会など、全体ワークショップも合わせて開催し、検討を重ねていきました。

→ くさねっこDAY（プログラム展開準備）

平成28年7月から11月の5か月間、月に1回、草津川跡地オープン前に日常的な活動をイメージしたプログラムを開催する社会実験。この活動を通じて、市民活動のルールづくりやしくみづくりに活かしていきました。

草津川跡地公園について

平成29年4月、草津川跡地の整備区間全長約7kmのうち、優先整備区間の区間2と区間5が草津川跡地公園としてオープンしました。
公園の愛称は区間2が「ai彩ひろば（あいさいひろば）」と区間5が「de愛ひろば（であいひろば）」です。
「ガーデンミュージアム」というコンセプトのもと、まちなかと琵琶湖をむすび、人と人をつなぐ全国に類を見ない草津ならではのオンリーワンの魅力空間を目指し、さまざまな市民活動（くさねっこ）の取り組みを草津川跡地公園を舞台に広げていきます。



公園の運営

草津川跡地公園は、人と自然がつながる公園として、
「緑」「市民活動」「事業者」が連携して管理・運営を行っていきます。

緑の管理活動部会

- 市民活動団体
  （ガーデニングサークル）
- 地縁団体・教育機関 など

緑のコーディネーター

・緑の維持管理 ・空間づくり
・部会のマネジメント
（ガーデニングサークル）

空間づくりによる
場の演出

空間づくりによる
活動支援

草津川跡地公園管理運営会議

草津川跡地公園パートナーズ

- 市民活動団体
- 地縁団体
- 教育機関
- 草津まちづくり株式会社
- 事業者 など

事業者活動部会

- 民間商業施設出店事業者
- 草津まちづくり株式会社

事業者コーディネーター

・商業関係の窓口
・公園内の収益管理
・中心市街地、商店街との連携

市民活動部会

- くさねっこメンバー
- 市民活動団体
- 地縁団体
- 教育機関 など

市民活動コーディネーター

・市民活動の窓口
・プログラム企画の調整
・プログラム実施カレンダーの作成
・情報発信、活動記録
・チームメンバーの育成、活動サポート

市民活動による
来園者の確保

くさねっこの3つのコンセプト

草津川跡地公園が、将来にわたってさまざまな活動ができる空間となるよう、どんな使い方ができるか、どんな空間だと市民が利用しやすいかなど、市民のみなさんと話し合いながら、空間デザイン設計、運営のしくみやルールづくりなど、草津川跡地プロジェクトを進めてきました。そんな話し合いの中で、市民のみなさんと一緒にまとめた草津川跡地での市民活動のコンセプトです。

1 Together

みんなの想いが集う場にしよう

誰もがいつでも、ふらっと"みちくさ"をするようにここを訪れる、自然と足が向いてしまう場所。みんなが思い思いに時間を過ごす。のんびりすることも、みんなでわいわいすることも。だれかがいつもいるから、友達ができたり、趣味がみつかるかもしれない。今度ここに来たら何をしようか、みんながいつも考えてしまう、そんな身近な場にしていこう。

2 Symbol

新しい草津のシンボルにしよう

川の跡地を使ったこんなに細長い公園はなかなかない。草津にしかないこの空間を、次代の子どもたちに自慢できるような場所へ。新たな市民活動の種はまかれたばかり。これから次々に芽を出し、花を咲かせていく。そしてここに来たら、草津に来たなって思える。そんなみんなの記憶に刻まれた草津のシンボルとなる場にしていこう。

3 Raise

草津の自然や文化の種を大切に育てよう

子どもだって、おとなだって新しいことを学ぶときはどきどき、わくわくするもの。ここに来ればそんな体験がたくさんできる。草津川から始まった歴史や文化、自然を学んだり、絵を描いたり、写真を撮ったり、少し芸術に触れたり。でもそれは背伸びしないでできるもの。それぞれが自分の好きなカタチを目指せばいい。そんな学びの場にしていこう。

楽しく活動するためのくさねっこルール

くさねっこでできること

くさねっこは誰でも参加できる市民活動です。
新しく生まれ変わった草津川跡地公園を舞台に、
楽しい活動を広げていきましょう。

パフォーマーとして活動する

Performer

草津川跡地公園を舞台に、手作りクラフトや健康づくり、体験ワークショップや講座など、草津川跡地公園を利用するさまざまな方が参加でき、楽しく公園を活用するためにプログラムを実施します。

パフォーマーとは、くさねっこプログラムを開催する、市民活動団体や個人のみなさんです。くさねっこプログラムを開催することで、普段の活動をより幅広い方々に知っていただくことができたり、他の市民活動団体と知り合えるなど、新たなつながりが生まれます。また、コラボレーションなどを通じて新しい活動にチャレンジできるなど、さまざま学びや交流の機会を得ることができます。

チームメンバーとして活動する

Team members

くさねっこには、プログラムを開催するパフォーマー以外にも、さまざまな参加方法があります。プログラムの開催を支援したり、くさねっこの取り組みを情報発信し広げていくなど、その役割に応じてチームが結成されています。それぞれの役割を楽しく実践しながら、草津川跡地公園をもりあげていきます。「くさねっこ」から生まれた新しいコミュニティでは、たくさんの方との出会いや学び、交流の機会を得ることができます。

サポーターチーム

Supporter

草津川跡地公園を誰もが楽しく利用できるように、来園者とチームメンバー間の交流を図ったり、くさねっこプログラムの開催を手伝ったり、展開されているプログラムの案内や安全のための見守りなど、くさねっこの運営サポートを通じて、草津川跡地公園をより魅力的な場所にしていきます。

情報発信チーム

Reporter

くさねっこの活動の様子やくさねっこに関わる人たちを取材し、SNSなどを通じて情報発信をする役割。くさねっこの魅力を伝え、草津川跡地公園をより多くの方々にとって身近な場にしていきます。

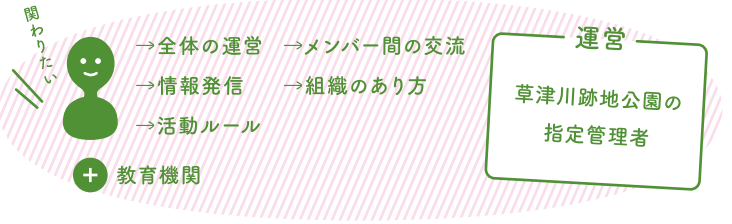
草津川跡地公園管理運営会議と市民活動部会について

草津川跡地公園管理運営会議について

草津川跡地公園のにぎわいとうるおいの創出に向け、草津川跡地公園に隣接する地縁団体、草津川跡地公園で活動する市民活動団体や事業者、市内企業、地域の教育機関等が、相互に連携および調整しながら合意形成を図っていくための会議です。

市民活動部会について

パフォーマーやチームメンバーの中から、くさねっこ全体の運営に関わりたいメンバーで結成されるものです。また、その他、教育機関などが部会のメンバーに加わり、情報発信の方法や活動ルール、メンバー間の交流や組織のあり方などについて検討していく役割を担います。そして、草津川跡地公園の市民活動コーディネーターにより運営され、他のパフォーマーやチームメンバーを巻き込みながら、くさねっこの活動全体を支えていきます。



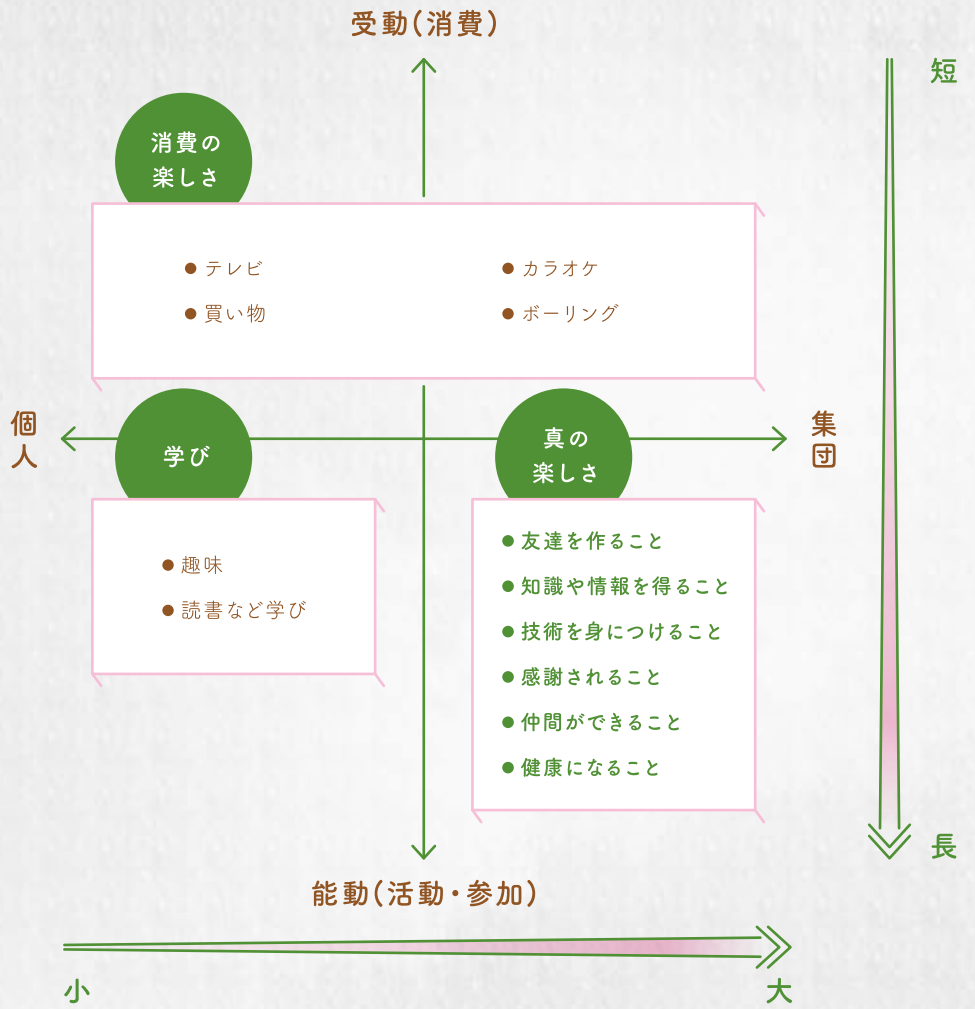
くさねっこを楽しむための5つの作法

草津川跡地公園から広がる市民活動「くさねっこ」で、
何よりも大切にしていることは「楽しさ」です。
「くさねっこ」の活動にはさまざまな楽しさがあります。
そして、その楽しさは、活動する市民のみなさん一人ひとりが
自分自身で生み出していくものです。

「楽しさ」には、テレビを見たり、仲間とカラオケに行ったり、
消費を通して得る受動的な「楽しさ」と、
学んだり何かをつくりだしたりすることで得る
能動的な「楽しさ」があります。同じ「楽しさ」でも、
受け取るよりも自ら生み出すもののほうが継続し、
一人で感じるより、大勢の仲間と共有するほうが大きくなります。

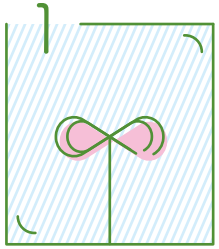
くさねっこの「楽しさ」は、まさに、みんなで生み出す「楽しさ」。

楽しいと思えることを次から次へと生み出すことができる、
そんな力を身につけることができれば、
その人は一生楽しむことができます。
くさねっこは、そんな「楽しさ」を生み出す力を
草津川跡地公園を舞台に広げていきます。



くさねっこを楽しむための5つの作法

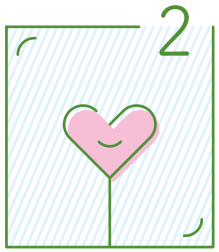
みんなで「楽しさ」をうみだしていくために。くさねっこでは、大切にしたい5つの作法があります。
これは、草津川跡地プロジェクトのワークショップや社会実験での市民のみなさんとの
話し合いの中で生まれた活動ルールです。



1 みんなでつくる

例えば

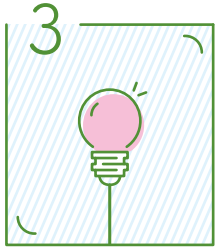
それぞれの個性、多様性を認め合おう
誰もが安心して楽しめる場にしよう
助け合ったり、協力したり、コラボレーションを大切にしよう



2 暮らしをちょっとよくする

例えば

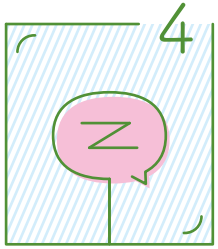
ワクワクする気持ちと笑顔を広げよう
困りごとをみんなで楽しく解決しよう
美味しいお茶の時間を楽しむような日常を演出しよう



3 チャレンジする

例えば

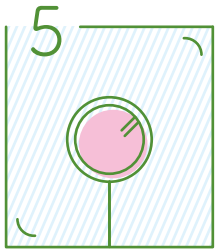
できない理由を探すより、できる工夫を発明しよう
自分や仲間、そして誰かの夢を応援しよう
日々の活動の延長線でほんの少し挑戦してみよう



4 出会いの場をつくる

例えば

陽だまりとそよ風のあるところに集まろう
会話がうまれる工夫をしよう
笑顔であいさつを交わそう



5 草津らしさを大切にする

例えば

草津らしさって？みんなで語り合おう
草津の魅力を探そう、伝えよう
「急がば回れ」ちょっと一服してみよう

column

「急がば回れ」の言葉が生まれたのは、現在の草津市矢橋町のあたりです。語源は、宗長（室町時代の連歌師）の歌「もののふの矢橋の船は速けれど急がば回れ瀬田の長橋」。当時、京都へ向かうには、矢橋から湖上を舟で大津に行くか、瀬田の唐橋（長橋）を回って陸路を行くかを思案したことに由来します。舟で渡る方が近くて速いのですが、比叡山から吹き下ろされる突風（比叡おろし）により危険な航路であったため、天候次第で舟が使えないことを考慮すれば、時間がかかっても陸路を行く方が安全で着実だったのです。

くさねっこの活動イメージ

つくる

木の実や木の枝、ローズマリー、ラベンダーなど自然素材を使ったクラフト、
小物やアクセサリーづくりなど。得意なこと、好きなことをいかして、
お友達やご近所さん、公園にお散歩に来た人と一緒に、公園の片隅で
ものづくり。そんな気持ちで手作りワークショップを開催したら、
得意なことがもっと得意になったり、好きなものが一緒で気の合うお友達が
たくさん増えるかも。ものづくりの楽しさをたくさんの人と共有したり、
一緒につくりあげていきましょう。

活動のヒント

草津川跡地公園には、フォレストガーデンやロックガーデンなど、さまざまな形式のガーデンでたくさんの植物が育てられ、また、グラスガーデンやせせらぎなどが整備されています。草木や水、風、太陽の光。そんな自然素材をふんだんに活用して楽しいプログラムを展開してみましょう。

カテゴリー

パフォーマー

Performer

まなぶ

知らなかった知識や考え方を知ること、理解することは、とっても楽しい。
草津には草津の歴史や、昆虫や植物の知識、ヨガや楽器の演奏など、
さまざまな知識や技術をもっている方がたくさんいます。
また、特別な知識でなくても知りたいこと、学びたいことはたくさんあります。
例えば、いつものお料理のちょっとした工夫や豆知識。
そんな、ちょっとしたことをお友達やご近所さん、
公園にお散歩に来た人が学べるミニ講座を開いていきましょう。

活動のヒント

くさねっこは草津川跡地公園という野外空間を舞台にした市民活動です。野外空間の魅力は、春、夏、秋、冬と季節によってさまざまな変化があること、そして、太陽が昇り、陽が沈むように、一日でも時間が経つにつれ空間の表情が変わっていくことです。日中だけでなく、ナイトピクニックなど夜を楽しめるような、野外空間の特性を活かしたプログラムも素敵です。

カテゴリー

パフォーマー

Performer

くさねっこの活動イメージ

演じる

音楽やダンス、ファッションなど。
みんなそれぞれ大好きなものがあり、それぞれで楽しんでいます。
でも、そんな楽しみをお披露目する場があると、
ぐっと日常が華やぐかもしれません。
たくさんの人が訪れる草津川跡地公園を舞台に、
ちょっと勇気を出して大好きなことを披露してみましょう。

活動のヒント

草津川跡地公園は、市民のみなさんと一緒にそこでやりたい活動アイデアを考えながら、そのアイデアを実現できるように工夫してデザインされた公園です。さまざまなプログラムを展開してみましょう。

カテゴリー

パフォーマー
Performer

支える

たくさんの人に草津川跡地公園に訪れていただき、楽しんでもらうために。
くさねっこの活動全体を支えるのも、くさねっこの大切な活動です。
くさねっこプログラムへ案内したり、公園の魅力や楽しむ方法を教えてくれたり、みんなが安全に楽しめるように見守っていたり。それは、草津が大好きで、草津川跡地公園をみんなに愛される場所にしたいから。
そうして楽しみながら、くさねっこの取り組みを支えていきましょう。

活動のヒント

草津川跡地公園には市民活動コーディネーターが公園内にあるにぎわい活動棟にいますので、くさねっこのことなら気軽に相談することができます。また、にぎわい活動棟には教養室（有料）があり、そのスペースを使ってプログラムを開催することもできます。野外空間だけでなく、屋内施設も使えると活動の幅もぐっとひろげて考えることができます。

カテゴリー

チームメンバー
Team members
,
サポーター
Supporter

くさねっこの活動イメージ

発信する

草津川跡地公園を舞台に、市民の手作りの活動がたくさん生まれることは、
とても素敵なことです。
もっとたくさんの人に草津川跡地公園の魅力を知ってもらいたい、伝えたい。
くさねっこプログラムの情報や、日々の草津川跡地公園の様子、
くさねっこに関わるさまざまな取り組みを発信していきましょう。

活動のヒント

草津川跡地公園にはレストランやホットヨガやランニングができるスポーツ施設などの商業施設エリアKUSATSU COCORIVA（クサツココリバ）があります。食事に来たり、友達とお茶したり、ホットヨガに来たり、公園に遊びに来る目的だけでない、さまざまな方が利用する公園です。くさねっこのプログラムも公園というイメージにとらわれず、さまざまな活動を展開していきましょう。

カテゴリー

チームメンバー *Team members*, 情報発信 *Reporter*

交流する

だれでも気軽にあいさつしあえたり、ちょっとした会話が生まれたり。
くさねっこのプログラムを通して趣味がみつかったり、友達になれたり。
草津川跡地公園を訪れることをきっかけに、子どもからお年寄りまで、
さまざまな人と人がつながれる。
規模は小さいけれどいつもだれかがいるような、
みんなの居場所をつくりましょう。

活動のヒント

草津川跡地公園には大きな広場があります。草津川跡地公園の顔となる場所で、たくさんのプログラムを一緒に開催したり、マルシェのようなイベント、空間の地形を活かした階段状ののり面がある場所は客席のような使い方ができるので、ステージとして活用することも。みんなで一緒に大きなイベント企画にも挑戦してみましょう。

カテゴリー

パフォーマー *Performer*, チームメンバー *Team members*

くさねっこに　参加するには

Performer　パフォーマーとして活動する

お問い合わせ
↓
利用説明
↓
プログラム申請書提出
↓
日程・企画内容調整
↓
活動許可
↓
プログラム実施

「くさねっこ」の対象となる活動

1 市民活動に携わっている方、グループ・団体および行政、ならびに社団法人・学校法人などの公共性の高い団体が主催する活動、及び、個人の手づくりの活動

2 訪れた人はどなたでも参加することができ、地域や日々の暮らしがちょっと良くなるような楽しい活動

応募条件

- くさねっこコンセプトに合っていること
- くさねっこを楽しむための5つの作法に共感して実施できること
- 自らプログラムを企画・運営し、責任をもって安全（ボランティア保険等への加入）に実施すること
- 営利のみを目的にしない、公共性の高い活動であること
- 特定の人しか参加できない（排他的）企画でないこと
- 宗教・政治活動を目的としたものではないこと
- 公序良俗に反するプログラムでないこと
- 公園利用者や事務局、くさねっこチームメンバー、他団体と良好な関係性を築けること

Team members　チームメンバーとして活動する

お問い合わせ
↓
参加説明
↓
参加登録
↓
プログラム参加

くさねっこチームは、
2つの活動チームに分けられています。

Supporter
サポーターチーム
くさねっこの運営サポートを通じて、くさねっこをより魅力的にします。

Reporter
情報発信チーム
くさねっこの魅力を発信します。

活動内容

- それぞれの役割を楽しく実践しながら、くさねっこを盛りあげます
- チームミーティングや自主勉強会などの集まりがあります
- 参加のペースはひとそれぞれ、都合に合わせて活動できます

お問合せ

草津川跡地公園パートナーズ

〒525-0032
草津市大路二丁目4番11号
TEL：077-562-5010　FAX：077-562-5092
受付 9：00～17：00（火曜・年末年始を除く）

草津川跡地公園パートナーズについて

草津市から委託され、草津川跡地公園の管理運営を行う指定管理者です。
公園の施設管理と合わせて、緑のコーディネーター、事業者コーディネーター、
市民活動コーディネーターの3人のコーディネーターを配置し、
草津川跡地公園での活動を支えていきます。

発行日　平成29年3月
発　行　草津市 草津川跡地整備課
〒525-8588 滋賀県草津市草津3丁目13番30号
TEL：077-561-6867（直通） FAX：077-561-2487
E-mail：kusatsu-river@city.kusatsu.lg.jp

協力
草津川跡地公園管理運営会議 市民活動部会
編集
studio-L